

シチズンシップ教育

「茨城県の戦争の記憶」

実施日：2014年8月9日

目的

- 水戸啓明高校社会科では、夏休み中に県内の戦争関連施設の見学を企画しました。
- 来年で戦後70年を迎えたいま、戦争を直接体験した世代の高齢化を受けて、次世代の子ども達の戦争や平和についての認識を育成する重要性はますます増してきています。
- 県内にある戦争関連施設を訪ね、さまざまな資料や展示品に触れ、戦争の記憶を辿ることによって、戦争に対する認識と平和の在り方についての主体的な思考を深めていくことが今回の活動の目的です。

学習の流れ

- 事前学習：映画「永遠の0」の鑑賞、訪問施設の概要、太平洋戦争の概要
- 施設訪問：予科練平和記念館、雄翔館、筑波海軍航空隊記念館
- 事後レポート：訪問施設の方々に向けた感想文

参加人数

- 1年生 … 1名
- 2年生 … 10名
- 3年生 … 3名

- 引率教員 … 5名

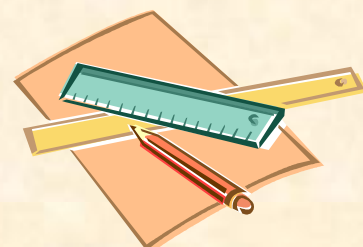
事前学習の様子

校外学習前日の8月8日に事前指導を行いました。訪問する施設の概要や、校外学習の目的を学習しました。

2015年は終戦70年という区切りの年です。このことをきっかけに、改めて戦争について学び、考え、後世に戦争の記憶をつないでいくべきではないかと思います。



事前指導の最後に、映画「永遠の0」を鑑賞しました。戦争体験者を訪ね、戦争とは何だったかを問うていくストーリーです。どの生徒も真剣に作品に見入っていました。



訪問施設 ① 予科練平和記念館

<概要> 1939(昭和 14)年に海軍飛行予科練習生、いわゆる「予科練」が神奈川県横須賀から、この茨城県阿見町に移転しました。予科練平和記念館には、そのような歴史的背景をもつ阿見町の戦史の記録が保存・展示されています。今回は、元予科練生の方のお話を聞くこともでき、改めて命の尊さや平和の大切さを学ぶことができました。



館内を案内して下さった吉田さんです。予科練の歴史だけでなく、予科練生になるまでの経緯や、普段彼らがどのようなことを学び、どのような訓練を受けていたのか、丁寧に説明して下さいました。



記念館内の展示室は、予科練の制服である「七つボタン」をモチーフに7つの空間から構成されています。ロータリーや廊下にも、さまざまな写真や地図、年表などの資料が配置されていました。



ここは、7つの展示室のうち「訓練」をテーマにした部屋です。予科練での厳しい生活や訓練風景、教育のようすが当時の取材に基づくイラストや写真・実物などで紹介されています。中央の布は、就寝用のハンモックです。生徒たちは、興味津々なようすで展示品を見学していました。



館内のいたるところに、予科練生の当時の「声」を見つけることができます。生徒たちと同世代の予科練生もたくさんいたなかで、彼らが常に死とともに生きていたという事実を強く感じました。現代社会では感覚しづらい価値規範ではありますが、戦争の時代を生きた人たちの思いが伝わってきます。

合格しました。
全く夢のようです明日より兵隊ですから。

予科練生 堀久さんの手紙より抜粋

あの戦争はもう遠い昔の物語となった。
半世紀以上に渡る経過で、国・社会・人間は様々に変わったが、是非は別に、国の為、陛下の為、親兄弟の為に敵と相打つ覚悟で特攻隊員たらんと志願入隊した当時の私達は、純真無垢な少年だった事は確かであり、それはいくら期間の風化でも変えられない私たちの歴史の一節である。

予科練生 堀久さんの手紙より抜粋

僕はもう、お母さんの顔を見らなくなるかも知れない
お母さん、良く顔を見せて下さい。
しかし僕は何んにもカタミを残したくないんです。
十年も二十年も過ぎてからカタミを見てお母さんを
泣かせるからです。
お母さん、僕が郡山を去る日、自分の家の上空を飛びます。
それが僕の別れのあいさつです。



予科練生 堀久さんの手紙より抜粋

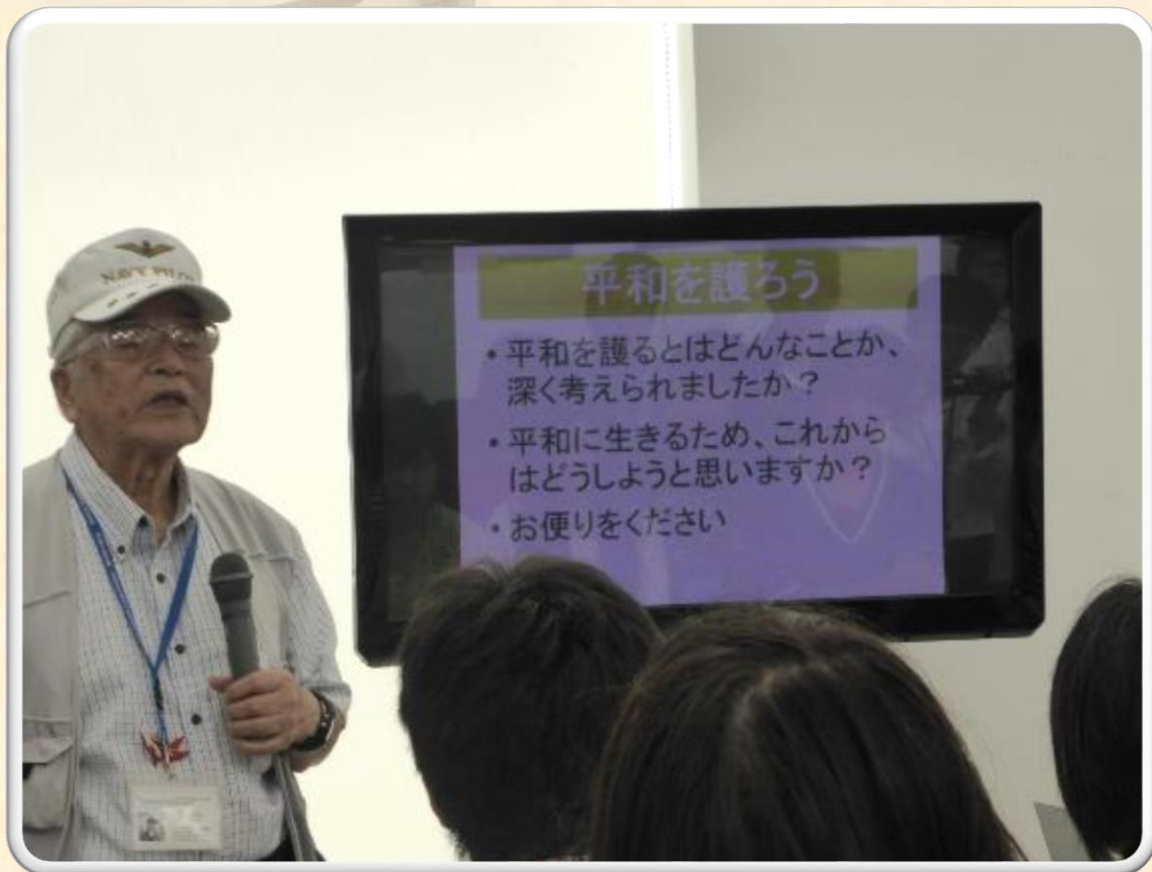


足元に見える地図は、アメリカ軍が入手していた日本の俯瞰地図です。このように当時のアメリカ軍の文書資料なども数多く展示されており、臨場感のある空間になっています。



館内を順にまわった後、元予科練性の戸張さんのお話を聞くことができました。

ご自分の戦争体験を丁寧にお話してくださいました。一人ひとりが今ある生を大切にしなければならないこと、さらに平和の大切さを次世代に伝えていくことの重要性を感じました。



平和記念館から 500m ほど離れた場所に「雄翔館」という資料館があります。ここには予科練戦没者の遺書や遺品が収蔵・展示されています。特攻で亡くなった方々の顔写真が飾られており、あどけない笑顔がとても印象的でした。

訪問施設 ① 筑波海軍航空隊記念館

＜概要＞1943（昭和 18）年に霞ヶ浦海軍航空隊の陸上班の一部を友部に移し、初等教育班として設置されました。笠間にあるにも関わらず「筑波」となっているのは、パイロットが上空からの目印にしたものが筑波山だったためです。「永遠の0」のロケ地になった場所でもあり、撮影時のセットがそのまま保管されている部屋を見学することができました。



案内をしてくださったのは、小林さんです。左の写真は、映画「永遠の0」のロケを行った当時のセットが保管されている部屋です。天井からつるされているライトが暗幕でおおわれているのは、空襲の標的にならないようにするためです。戦時中のようなすが、細部まで再現されています。

海外で発見されたゼロ戦の一部です。本物を前にして、生徒たちも興味津々です。このように、当時を知るための貴重な資料が数多く展示されていました。

